

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社セリオ東三方工場新築工事	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市北区東三方町263-1、	構造	S造
用途地域	商業地域、法第22条区域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,040時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年5月21日
敷地面積	100,007.61 m <sup>2</sup>	作成者	中野 栄太
建築面積	3,638.25 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	7,006.50 m <sup>2</sup>	確認者	安井 孝浩



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

**LR のスコア = 3.7**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> CASBEE静岡2016年版による評価結果である。躯体や仕上げ、設備を解体時に分けやすくしているだけでなく、工場内に分別スペースを設け、リサイクル業者が回収しやすくなっている。また、設備の修繕やバックアップに対応したスペースに対応しており、敷地境界に十分な緑地を計画している。		<b>その他</b> セリオ東三方工場は、セニアカー(電動車椅子)の製作工場である。
<b>Q1 室内環境</b> 平均照度の高い照明を使用している。また、内装材・接着剤は全てF☆☆☆☆を使用している。	<b>Q2 サービス性能</b> 階高や天井高に余裕を持たせている。また、設備の修繕やバックアップに対応した十分な設計になっており、災害時に備えた対策もとられている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 敷地内の緑地面積が30%を超えるような十分な緑地を計画している。
<b>LR1 エネルギー</b> 省エネ法の届出に則した外皮・設備内容としている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 躯体と仕上げ、内装材と設備がそれぞれ容易に分別・取り外し可能になっている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 隣等間隔3.47で、夏期に建物を通った風が回復しやすいようにした。また、工場内に分別収集スペースを設け、廃棄物を回収しやすくした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>						
建物名称	株式会社セリオ東三方工場新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★

<b>2. 重点項目への取組み度</b>						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.0	/5	よい			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9	/5	がんばろう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.4	/5	がんばろう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5	がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

<b>3. 重点項目についての環境配慮概要</b>		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点				4.0	
	■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④空調・給排水配管において、主用途の3種のうち2種類以上に0を使用	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	屋光利用設備
				3.2	3.2.1	③	屋光制御
		Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数
					2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
				2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
				2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
				2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
				2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤外構緑化指数が39.3%となるように外構を緑化している。 ⑥緑被率23.40%になるよう緑地を確保している。	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
			3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨省エネ法の届出に即した外皮・設備内容としている。	LR-1	1			⑦	建物外皮の熱負荷抑制
			2			⑧	自然エネルギー利用
			3			⑨	設備システムの高効率化
			4	4.1		⑩	モニタリング
				4.2		⑩	運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水機能付き便器を使用している。 ⑫躯体以外で、再生アスファルト舗装や再生クラッシュランを使用している。	LR-2	1	1.1	⑪	節水	
				1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
					1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
			2	2.1	2.1.1	⑫	材料使用量の削減
					2.1.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用
					2.1.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用
					2.1.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用
					2.1.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材
					2.1.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み
			3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用
				3.2	3.2.1	⑬	消火剤
					3.2.2	⑬	断熱材
					3.2.3	⑬	冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2換算値66%	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮
			2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善
<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点				2.9	
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰空調・換気設備において、災害時に全体機能が停止しないよう、負荷容量を下げた運転ができるように設計されている。	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
					2.1.2	⑯	免震・制振性能
				2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
					2.4.2	⑰	給排水・衛生設備
					2.4.3	⑰	電気設備
					2.4.4	⑰	機械・配管支持方法
					2.4.5	⑰	通信・情報設備
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点				2.4	
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳1階階高4.85m、2階階高4.75m 事務所天井高2.7m	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
			3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり
					3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑外装・屋根等の形状や色彩において、周辺の街並みや風景に調和させている。 また、植栽で良好な景観を形成している。	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点				2.7	
	■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) ㉔敷地内の緑地面積が30%を超えるよう、十分な緑地を計画している。	Q-3	1			㉒	生物環境の保全と創出
			2			㉓	まちなみ景観への配慮
			3	3.2		㉔	敷地内温熱環境の向上
		■敷地外環境対策 (㉕温熱環境悪化の改善) ㉕隣等間隔3.47で、夏期に建物を通った風が回復しやすいようにしている。	LR-3	2	2.2		㉕